

はぐくみ校 事例紹介 宮城大学 食産業学群



子どもたち
学生と共に種まき・除草
収穫などを体験



「宮城大学チアーズ農園」プロジェクト

宮城大学×イオングループ



【構成】

宮城大学学生：23名（女性19人、男性4人）

農業女子のやりたいを実現！（男性も！）

小中学生：21人（小学生19人、中学生2人）

※第1回の参加者

サポート：宮城大学の教員、
イオングループのCSR担当スタッフ

【活動内容】

イオンチアーズクラブは、イオンの各店舗で小中学生を募集・チアーズクラブを組織化し、月に1回活動。年に4回、体験学習の機会として宮城大学チアーズ農園で大学生からの農作業等の体験学習を行う。子供たちが楽しく体験できるように大学生が農作物の栽培管理を行い、説明内容を考え、実践する。

ポイント

☑産学連携で宮城大学の学生が先生役になり、小中学生を対象とした食農体験を実現するプロジェクトを運営

☑教える大学生、教わる小中学生の双方が自分事として将来の食と農業を楽しく体験しながら共に考える場！



宮城大学の学生は、子供たちを受け入れるだけでなく、
「農園」の企画、運営、管理を担う中で、自分たちの
やってみたい農業のイメージを実践できる！



宮城大学による学生生活活動の狙い

本学では、農業、食産業への人材育成・供給を担う教育機関として、農場実習を始めとするカリキュラムを学生に提供。

しかし、限られた講義・演習時間内では、学生は受け身にならざるを得ず、学生の主体的な学びと実践の場の提供が課題。

産学連携で双方の資源、強みを活かし、未来世代が自分事となるwin-winの取組を楽しく実現。

【取組を開始してみても分かったこと】

- ・学生の実際にやってみてみたいの気持ちが極めて強い！（特に女性：農業女子？）

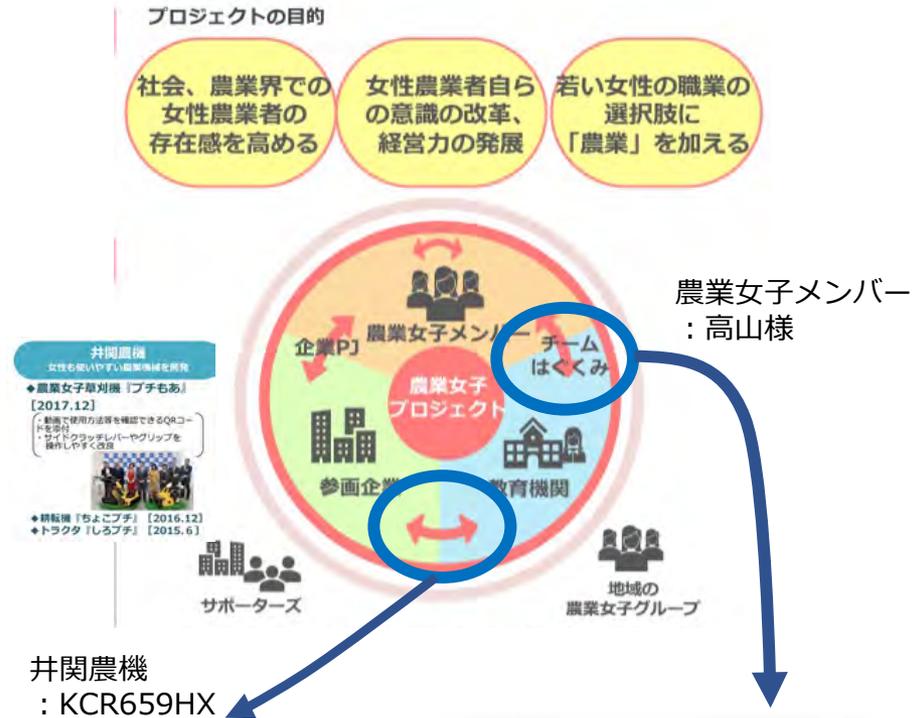


農業女子のやりたいを実現！



近い将来の農業分野への就職、就農、起業をはぐくむ！

※農業女子P Jで「産官学連携」へ



(イメージ)
使いやすい農具や管理機などの紹介・導入。管理機等の安全な使い方の指導・体験会を井関農機(株)の協力で実施！



(イメージ)
栽培の工夫、品目選択、食べ方の提案などを農業女子メンバー(高山真理子さん)に指導してもらう予定！

活動における作戦のポイント

- ・子供たちが楽しく、農業を好きになってもらうことが目的。
- ・学生のみんなが楽しくなければ、子供たちは楽しくならない！

宮城大学チアーズ農園の活動：作戦その1：さつまいもを作って食べるまで



どうする？



いっしょに！



こうするよ！



楽しくなる！



育つ！多分・・・。

どれだけ取れるかわからない
ので少し多めに植える・・・。



楽しく掘れた！



Lacuno ショベル (桜三二)
が子供も含めて使いやすい!



真剣に掘る!

出来た芋はロスに
しない!



大学祭での販売収益は
「子供食堂の支援」に
イオン東北(株)様を通じて寄付!